

**新型コロナウイルスの状況下における
第63次南極地域観測に関する
基本的な考え方及び対応方針**

第63次南極地域観測の基本的な考え方

第63次南極地域観測は以下の基本的な考え方により策定する。

1. オゾンホールが発見等、世界的に重要な成果を上げ、地球環境変動の長期連続観測を行ってきた**南極地域観測事業の継続を目指す。**
2. 昭和基地での越冬及び継続観測のための「**越冬隊の交代**」と「**物資の輸送**」を基本とする。
3. 観測隊員及び「しらせ」乗員の安全を確保するため、**適切な感染防止対策を講じつつ、「しらせ」及び南極での発生防止を徹底する。**
4. 上記考え方のもと、第62次の経験・実績を踏まえ、「しらせ」は往復での燃料補給を計画し、**観測期間の確保に努め、昨年実施できなかった氷床コア掘削計画や海洋観測等重要な観測を実施する。**

基本的な考え方に基づく対応方針について

今年度と例年の基本的な対応方針の相違は以下のとおり。

事項	今年度（第63次） 〔★は昨年度第62次との相違点〕	例年の場合
検疫期間等	<ul style="list-style-type: none"> ・乗船前に2週間の検疫期間を設ける ・検疫期間前後に感染が確認された場合に備え、交代要員を用意 (健康診断は例年通り実施) 	<p>設けていない (6月の隊員決定前に健康診断を実施)</p>
隊員の「しらせ」 乗・下船地	<p>乗船(往路)：日本[横須賀] ★下船(復路)：フリーマントル[豪]※ (日-豪 間は民間航空機で移動)</p>	<p>乗船(往路)：フリーマントル[豪] 下船(復路)：シドニー[豪] (日-豪 間は民間航空機で移動)</p>
計画等の決定	<p>★【6月本部総会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画等の(案)を決定 ・今後の情勢等によりやむを得ず変更する場合の対応方針も併せて決定 <p>【10月(予定)本部総会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終決定 	<p>6月開催の本部総会で、 観測計画等を決定</p>
出発前の 本部主催壮行会	<p>開催しない</p>	<p>11月に開催</p>

※：フリーマントルにおける隊員下船の可否は10月総会において最終決定。下船できない場合は日本[横須賀]で下船。

第63次南極地域観測の対応方針に基づく計画(案)について

事項	第63次 (案)	当初計画 (コロナ考慮なし)	第62次実績
観測隊の行動区分	本隊・先遣隊で構成 (しらせ)(DROMLAN) <small>* 別動隊(海鷹丸)の派遣は東京海洋大において検討中</small>	本隊・先遣隊・別動隊で構成 (しらせ)(DROMLAN)(海鷹丸)	本隊のみ
DROMLANの利用	利用する (先遣隊) ※1	利用する (先遣隊)	利用無し
観測隊ヘリ	チャーターしない	チャーターする	チャーターなし
「しらせ」の行動計画	【往路】 日本⇒豪・フリーマントル(燃料補給)※2 ⇒昭和基地 【復路】 昭和基地 ⇒豪・フリーマントル(燃料補給・観測隊下船)※2 ⇒日本	【往路】 日本⇒豪・フリーマントル(燃料補給・観測隊乗船)⇒昭和基地 【復路】 昭和基地⇒豪・シドニー(燃料補給・観測隊下船)⇒日本	日本⇒昭和基地⇒日本 (他国に寄港せず、日本-基地間を単純往復)
行動日数 (うち、昭和基地沖行動日数)	141日 (58日)	151日 (58日)	95日 (30日)
隊員編成	73名 (越冬隊33+夏隊40) <small>* 他に交代要員4名と同行者7名程度を予定</small>	79名 (越冬隊33+夏隊46) <small>* さらに、同行者13名を予定</small>	44名 (越冬隊31+夏隊13) <small>* 他に交代要員5名</small>
当初計画を100%とした場合の活動割合	89%	100%	60%

※1：利用の可否は10月総会において最終決定。

※2：フリーマントルでの寄港の可否、及び可の場合の具体的な給油地は10月総会において最終決定。往路では隊員は下船せず。現時点の給油候補地 ①HMAS Stirling基地、②フリーマントル港外洋上。

第63次「しらせ」行動計画（案）

総行動日数	141日
南極行動日数	99日
総航程	約18,000マイル

